

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念に「地域の中で家庭的な雰囲気のもと専門スタッフや仲間と生活を共にし…」とかがけ取り組んでいる。		入居者の実態合った、より細かいケア理念があると良いと感じるので実施し「健康でより自立したその人らしい生活」の理念をさらに具体化していきたい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関やスタッフルームに掲示し職員全員で意識を持つようにしている。朝礼やカンファレンス時に適時、管理者より理念に基づいた支援の説明を実施しているが日常的ではない。		日々理念を意識できるよう、全員参加の毎月のカンファレンス時を共有・再確認の場としていく
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念は各ユニット内玄関の見やすいところに掲示している。年2回の家族懇談会でホームの役割等理解していただけるよう意見交換・説明している。町内会向けの『ホームたより』を回覧し理解を求めている。		今後も継続していきたい
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩の際に挨拶をかわしたり、畑でとれた野菜と頂いたり交流がある。		ホームたよりや運営推進会議を活用し継続し、気軽に立ち寄って頂けるよう取り組んでいきたい。ホームのイベントに参加してもらったり交流を図っていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入しており、町内行事(お祭り・ゴミ拾い)に参加している。又事業所のスペースを町内会合に使用可能なことを案内している。小学校との交流を実現でき行事に参加した。		小学校との交流回数を増やしていきたい。学校行事の参加の他に、ホームにも来て頂ける行事等取り組みを行いたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	実習生の受け入れをしている。		併設のデイサービスの休みの日(日曜)などを利用して地域高齢者同士の交流が計れるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価はいつでも見れる場所に置いてある。毎月のカンファレンスや勉強会を通して実施し改善に取り組んでいる。</p>	<p>すべての職員が評価の意義や目的を理解できるように、新人職員に勉強会を通して説明していきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>報告し、助言内容等を職員に伝え、検討・実施に取り組んでいる。その結果を、次の会議で報告しサービス向上に取り組んでいる。</p>	<p>現在は会議形式の報告・検討が主なので、入居者の生活の一場面を実際に見ていただき(行事や食事を通して)、意見をもらえる機会を加えていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村担当者と話す機会は少ないが、質問等は電話やメールで連絡を取っている。介護認定更新・おむつサービス等の手続き等を行っている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度を利用してる入居者がいることは知っているが、制度についてすべての職員が理解していない。</p>	<p>新人職員には勉強会を通し説明し制度理解につなげていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止関連法の資料はいつでも見れるようにしているが、口頭での説明のみで勉強会を実施したことがない。</p>	<p>研修の参加や勉強会を行いすべての職員が周知していきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時話を伺いながら、説明をしている。(平成16年より新入居はない)入居後も契約に対する質問等あった際は都度対応している。</p>	<p>今後の入・退去時には同様に実施していきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情相談窓口を整備し、ご意見ボックスを設置しているが利用はなく、入居者からの希望・意見は随時話を聞き可能な限り対応している。</p>		<p>より入居者が意見を出しやすい環境づくりの方法をスタッフで話しあっていきたい。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>来訪時に、入居者の近況報告し、3か月毎にたよりを発行し暮らしぶりがわかる写真を載せ、人事異動併せてお知らせしている。体調不良時や受診後の報告は電話やFAXで報告している。お預かりしているお小遣い使用時の原本レシートは毎月ご家族に郵送し、出納帳は来訪時に確認してもらっている。</p>		<p>来訪時の報告では、十分な時間が作れない面があるため、今後も必要に応じ、個別的に報告・話し合いの時間を設定し実施していきたい。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情相談窓口を整備し、ご意見ボックスを設置している。年2回家族懇談会を実施している。意見等は速やかに対応し職員全員が把握することに努めた。</p>		<p>要望や意見が合った際は速やかに対応していきたい。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のカンファレンス・リーダー会議・個別面談の際に意見を聞く場を設けている。</p>		<p>個別面談の機会を増やし、言いやすい場を作っていく。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>行事や受診の際は職員の人数を多くしたり、入居者の状況に合わせて早番を作り、都度業務改善を行い柔軟に対応している。</p>		<p>左記を実施しているが、業務に追われている面がある。今後も職員全体で検討し常務の見直しをしていきたい。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>各ユニットで職員を固定し馴染みの職員が対応できるように対応している。異動は必要最小限に抑えている。</p>		<p>退職もあり、今後も個別面談を実施し職員の精神面・肉体面のフォローできる体制を継続していく。異動や退職時の入居者への報告時期を決めていないので、今後は入居者個々に合わせて報告時期を検討しお知らせするようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>経験年数に合わせて、外部研修に参加している。月1回の勉強会を開催している。</p>	<p>法人で研修の年間計画に沿い、ケアプラン勉強会から事例発表等の内部研修の実施と個人の経験等に配慮した外部研修の参加を積極的に行っている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者会議や外部研修で交流・情報交換を行っている。同法人事業所との交換研修を実施している。</p>	<p>当日の見学希望の際に、すべての職員が対応できるよう必要な知識をもてるようマニュアルを作成していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>外部研修の参加と個別面談を通じてストレスの要因について配慮した環境整備を行っている。</p>	<p>定期的な個別面談を継続しストレスの要因を把握し軽減を計っていききたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>実績や勤務状況を把握している。研修の参加や研修での事例発表の機会を設けている。</p>	<p>研修や勉強会・個別面談を継続し向上心が持てる・継続できる取り組みをしていきたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>平成17年以降入居はないが、利用時に面談をし、要望等聞いていた。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>平成16年以降入居はないが、利用時に面談をし、要望等聞いていた。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学や入居を前提に相談を受けた際にホームの説明や実施している内容を説明し、困っている内容等傾聴し明確に説明できるよう努めている。必要に応じ関連機関の紹介をしている。		当日の見学希望の際に、すべての職員が対応できるよう必要な知識をもてるようマニュアルを作成していきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居による急な環境の変化の軽減の為に、状況に応じて、併設のデイサービス利用お泊まりサービス 入居と段階的な支援をしている。		今後も継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に生活している意識を持ち家庭的な雰囲気を大切にしている。調理や裁縫等様々な場面で言い、職員が学ぶ機会も多い。		精神・身体面の変化により動的な活動が減少して入居者にも、入居者が得意だったこと・好んでいたことを活かした取り組みを増やしていきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時やケアプランの説明時に家族の要望を聞き、本人が希望している事柄や生活の様子を説明し情報交換・共有できるよう努力している。3か月毎にたよりを発行し生活の様子をお知らせしている。		来訪時の家族との情報交換・共有には十分な時間が取れない時があるため、事前に日程を決め実施している。今後も必要に応じ行っていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	来訪時間制限せず、いつでも会えるよう取り組んでいる。家族との外出や外泊が行えるよう、環境づくりやケアのアドバイス等実施している。行事や本人の誕生日会にお誘いしている。		意志伝達が困難な入居者には家族来訪時には特に職員が仲介役となり、日々の生活をお伝えしていくことが大切と感じているので、継続していきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や親戚への電話や年賀状・クリスマスカード作成の支援をしている。		今まで住んでいた地域とホームが違う方がほとんどであり職員は交流関係を把握していない。把握に努め、本人・家族の要望に応じ馴染みの方(会いたい方)や場所の関係を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個人の性格や疾病等により孤立しがちな方もいる。入居者間の関係が円滑に保たれるよう活動の提供やリビングの配置や席に気を配りトラブルになりにくい環境づくりとなるよう努力している。		入居者同士の関係性をより細かく観察し、職員同士情報交換しカンファレンスで都度話し合いを継続していく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	事例はないが必要に応じて取組んでいきたい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ入居者の希望や思いを汲み取って対応しているが、職員の人的都合で散歩や買い物・外出等希望に沿えない時がある。		業務改善の継続や事業所内での連携の継続をし、希望に沿えるよう取り組んでいきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し本人・家族より情報を得て馴染みの暮らし方が継続できるよう努めている。		把握が十分とはいえないので、都度本人や家族より情報を得ていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者の1日のリズムや生活習慣・疾病・性格を日々の観察の中から把握に努めている。		できること・できないことを日々観察し、本人の現状にあった支援をしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン立案時はスタッフ全員でカンファレンスを立案し、ご家族へ提示・説明、ご意見を伺いながら作成との過程で行っている。		ご家族の意向を聞く場・時間をもっと作り、情報共有や意見を伺っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	職員全員参加のカンファレンスを毎月実施し都度入居者の変化に合わせて計画の作成・見直しをしている。		今後も継続し、現状に見合った計画作成をしていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	生活記録に個別に記録し、毎日の申し送りで情報共有しているが、記録内容が具体的でない箇所もある。		個別の記録を具体的にし、介護計画に反映していけるようにOJTや勉強会を実施していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者状況に応じて個々に受診やご希望の場所への送迎している。		今後も継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	何度かボランティアには来て頂いたり、地域の小学校の行事に参加(1度)している。消防は運営推進会議に1度参加し講話頂き、避難訓練の立ち会いもしている。		運営推進会議でご意見を頂きながら、協力体制の充実を図ってきたい。ボランティアの活用を増やしていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	成年後見人制度を利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	毎回、運営推進会議に参加して頂き、意見・助言をもらっている。		運営推進会議以外にも必要時には相談できるよう関係を築いていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人、家族が希望するかかりつけ医や医療機関を利用している。個々に応じた受診の支援ができています。		今後を継続していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけの専門医(精神科・脳神経外科)への定期受診にて相談している。又、左記以外の入居者は内科医の定期往診時に報告・相談し、必要に応じ専門医の紹介をしてもらっている。		今後も継続していきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期往診と週1回入居者の体調を見て頂いている看護師が同じ病院の為、連携がスムーズである。24時間連携もとれている。		今後も継続していきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は、管理者・介護スタッフが出向き医療関係者と十分に今後について話し合い、情報交換し早期退院に結びつけられるようにしている。		同法人の病院(整形)入院時は早期退院にむけての協働があり、退院時は通院支援をしている。又、必要に応じて、同法人の理学療法士がホームにてリハビリ等アドバイスをもらっている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	主治医と家族の面談をもち情報共有し方針を決めるようにしている。		早い段階から本人、家族の気持ちや今後について話し合う機会を設けて取り組んでいきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人・家族の希望・気持ちを大切に、主治医と連携をとりながら、ホームできることを実施している。		今後は増える予測あり、入居者の体調等状況の変化に柔軟に早めに対応できるよう日々アセスメントを行い取り組んでいきたい。入居者が重度化する前に本人・家族と終末期に関して話し合う機会を持って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えの事例はないが必要時には努めていきたい		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報に配慮し本人のケアに必要となるとき以外や話題にしないよう配慮している。声かけや対応には気を配っているが業務が忙しいときなどはおこなえていないこともある。		勉強会などで意識時向上を図るようにしていきたい
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日々の生活や活動の中から思いを引き出し本人が選択できるよう取り組んでいる。		今後も継続していきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者個々の生活リズムを把握し、穏やかな生活を送ってもらえるよう心がけ取り組んでいる。		日々のアセスメントをし、本人からの希望をきちんと把握し可能な限り対応していけるよう努めていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	意思表示可能な入居者は希望時に美容室にしている。他は、職員やご家族の判断で定期的に美容室にいたり、訪問カットを利用している。		衣類や好みの品の購入時は、好みのものが選択出来るよう職員と一緒に買い物に行っている。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	好き嫌いを把握し嗜好に合わせた食事提供をしている。食材の買い物や食材を切ったり簡単な調理や盛りつけ・食器洗いや食器ふき等できることを活かしながら食事が楽しめるよう取り組んでいる。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人一人の状況に合わせて本人が食べたいもの・飲みたいものが出来る限り提供できるように支援している。		今後も継続していきたい
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	排泄表を活用しトイレ排泄パターンに合わせて誘導を行いトイレでの排泄を促している。個々に合わせた下着・オムツを使用している。		自らトイレに行けない方も、排泄表を活用し日中はトイレで排泄を取り組んでいる。日中は綿の下着とパット対応にし、皮膚のムレを軽減している。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	以前入浴を好まない方には、時間を聞いたり午前入浴も実施していたが、現在は拒否が少ないこともあり時間帯は(15時～17時)が多く、職員と都合となっている。時間帯の中で、何時ごろが良いか伺い希望に添えるようにしている。		拒否が合った場合はタイミングを合わせ日を改める等している。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の体力や夜間入眠状況に応じて、日中休息をとっていただいている。		夜間寝付けない方もいるので、睡眠状況をきちんと把握し、昼夜の状況を把握し対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人に応じてやりたいこと・できることを提供している。お手伝い後は感謝の言葉を伝えるようにしている。(掃除・食材きり・洗濯たたみ・計算ドリルなど)		より、できることを活かし本人がやりたいと思うことを提供出来るよう取り組んでいきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	1名のみお金を所持している。その他、1名は買い物時に支払いできるように支援している。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・買い物・外気浴(外でのお茶会)を行っている。買い物希望時は職員の都合により行けないこともあり、その際理由を説明し納得頂いている。		希望に添えるよう他のユニットと協力し努めて行きたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたく普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望に応じてドライブや外食等季節に応じて行っている。(花見・紅葉・雪祭り・サッポロビール園や美術館等)		少人数や個別対応等個々に合わせて今後も継続していきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話の支援は希望に応じ、日常的に行っている。子機使用にて自室でも会話できる。		会話や手紙を書ける方で実施していない方もいるので、本人に伺い、希望の際は支援していきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時間制限せず、いつでも訪問できるようしている。		自室やリビングでゆっくりすごして頂くよう配慮しているが職員が慌ただしくしているときがあるので見直しをしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	プラン見直しや日々の申し送り・カンファレンス時にケア内容を振り返り、身体拘束にならないよう実践している。		身体拘束について、日々点検をし職員全員で同じ目線をもてるようにしていきたい。適時勉強会で再確認していきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけていない。夜間、防犯上玄関のみ施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はスタッフが協力連携し見守りできるよう努めている。夜間、2名の方が転倒防止の為人感センサー使用させて頂き、起き上がり時、トイレ誘導や起床介助をおこなっている。		センサー使用もプライバシーの侵害と考え、センサーをはずす方向で取組んでいきたい。センサー使用の方も含め細めな訪室で安全に配慮している。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な薬剤は扉つきの棚に収納している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットや事故報告書を作成し、原因、今後の対応を検討している。事故が合った際は、当日はミニカンファレンスを行うように取り組んでいるが実施できない時もある。又、個々の身体状況にあった環境づくりを行うよう努めている。		勉強会などで再確認していきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事後時のマニュアルを作成し職員がすぐに目を通せるところに吊り下げている。状況に応じ個々にマニュアルがある。		緊急時の対応に不安な職員もいるため、定期的に再確認・勉強会をしていく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を実施している。運営推進会議の中で災害時の協力体制を検討している。数名の入居者も参加し、消防の協力も得ている。		避難訓練の事前お知らせを地域住民にし、訓練参加の呼びかけや協力体制を整えていきたい。夜間の災害に備えて整備していきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族へケアプラン説明時に予測されるリスクの説明をしている。		来訪時に近況報告をし、その他必要に応じ電話やFAXでタイムリーな状況報告を心がけている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定をしている。入居者の表情や様子をよく観察し、状況に応じ主治医に報告し指示あおいでいる。		個々の状態に常に気を配り少しのサインを見逃さないようにしていく。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬内容はファイルに保管し職員がすぐに内容確認できるようにしている。すべての職員が副作用や用法を理解できていない。		新人職員には、入居者一人一人の内服状況(病気との関連を含め)をきちんと説明していきたい。内服確認を行い、入居者の状況に合わせ、Drと相談し薬剤の形状を飲みやすいように工夫している。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	できるだけ自然排便となるよう水分量の把握と運動・活動の声かけをしている。個別にヨーグルトやプルーンを提供している。		今後も継続していきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせ、口腔ケアの見守り・介助を行っている。		夜間は義歯洗浄剤を使用している。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量や食事の残食から把握している。毎月体重測定し把握している。		バランスのとれた献立に配慮し調理しているが定期的に栄養面での勉強会を実施していきたい。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがある。家族同意の上、入居者や職員はインフルエンザの予防接種をうけている。		職員・入居者は外出後のうがい・手洗いは習慣化されている。感染症流行時期には来訪者にも案内しうがい・手洗い・必要時マスクをしてもらうよう予防に努めている。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後ふきんの漂白・煮沸消毒や調理器具の衛生管理に努めている。食品の日付の確認をきちんと行っている。		同様に対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		<p>夏場は玄関外にプランター置いている。親しみやすいような看板にしている。玄関内に椅子を設け靴の履き替えがしやすいよう工夫している。</p> <p>冬場は殺風景なので玄関内を飾り付け等家庭的な雰囲気にしていきたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		<p>季節に合わせた花や飾り・カレンダーなどで工夫している。好まれる懐メロや童謡が流れている。</p> <p>今後も継続していきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		<p>テーブル席やソファの配置は仲の良い同士が座れるよう配置し、廊下にもソファやベンチを置きくつろげる場をつくっている。入居者同士のトラブルもあるため不快に感じる入居者もいる。</p> <p>入居者ひとりひとりが不快な思いをせず快適に過ごせるよう配慮していきたい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		<p>家具や身の回りのものは本人が使い慣れたものや好むものを使用している。</p> <p>ご飯茶碗やお椀・湯のみ・箸は各自好みのものを購入している。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		<p>温度計・湿度計を目安にし、入居者の様子をみながら、喚起等調整している。消臭剤や消臭スプレーも併用しているも排泄物の臭いが残っていることがある。</p> <p>冬場はリビングに加湿器を設置し、加えて加湿用バスタオルをリビングや居室に掛け対応している。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		<p>要所には手すりを設置しバリアフリー構造である。</p> <p>適時環境整備の点検を行い転倒防止に努めている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや浴室の入り口に場所がわかるように掲示している。洗面所の鏡には夜間ロールカーテンをし鏡現象や混乱を防止している。日めくりカレンダーを活用しその日が理解できるようにしている。		入居者のできる部分を見極め、自立できる環境にしていきたい。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑に入居者が植えたい野菜や花を一緒に購入し、植え・水やり・草むしりなどして楽しめるよう活かしている。夏場は、玄関前でお茶会をしたり、冬場は玄関前やベランダにスタッフが雪だるまや、アイスキャンドルを作製をした。		車椅子の方や畑での水やりが難しい方が楽しめるよう、プランターを増やし、取組んでいきたい。

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 変えずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
散歩が習慣化されており、気分転換等体調維持に努めている。畑があり、花や作物を生育し楽しんでもらうよう取り組んでいる。季節感を感じて頂けるよう、ドライブや行事参加・ホーム内の飾り付けや漬け物づくりをしている。